

三中だより

令和3年度 1月号



令和4年1月21日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 16)
校長 小柴 憲一

子育てについて ～中学生～

保護者の皆様は、ご自身の思春期のころを思い出して子育てをすることはありますか。

お子さんが生まれて、首がすわったり、寝返りをうったり、言葉らしき音を発したり、伝え歩きを始めたりしたことに子どものように喜び、大きなランドセルを背負って小学校に入学する姿を見て感無量になり、逆に大きなけがをしたり夜中に高熱を出して大騒ぎをしたりして子育てをしているうちに、「私の子ども」に対する愛情がどんどん強くなってきたのではないのでしょうか。そして、お子さんに様々な期待をもち、「こうなってほしい」「あんな大人になってほしい」という夢もでき、お子さんの生活を管理し、ときには保護者の方が望む方向性とは異なる生活習慣・態度や言動に対しては、注意をしたり叱ったりしてきたことと思います。

ですから、その延長でお子さんを見ていると、

○いつまでもスマホいじっているから勉強する時間がなくなるんでしょ！

○だったら遅くまで起きているから朝起きられないんでしょ！

○どうして部屋の片付けができないの！

などの小言が思わず出てしまうことはないでしょうか。

お気持ちはよく分かります。保護者の方にとっては、「こうあってほしい」という願いがあるから「ああしなさい」「これしなさい」と言っているのですが、それが事実であったとしても、残念ながらお子さんよっては受け入れようとはしません。

今、お子さんは中学生です。

中学生という発達段階は、今まで以上に友人関係を優先するようになったり、自分だけの時間を過ごしたいと思うようになったり、社会の不合理的に怒りを覚えたりするなど、自分の価値観が確立し始めます。そして、その価値観は、保護者の方に影響される部分はあっても、まったく同じというようではありません。

また、お子さんは、学校で学習する、国語・社会・数学……英語等の9教科の学習以外に、体験的な学習活動・探究的な学習や話し合い・プレゼンテーション・発表等の学習により保護者の方が思う以上に知的になっており、さらに学校行事や部活動を通して複雑な人間関係の中でも自分の立場を確立できるようになったり、仲間たちと協力して同じ目標に向かう充実感を味わったりすることにより、社会を構成する一員としての自覚も高まってきています。

冒頭申し上げましたが、保護者の方ご自身が思春期だったころを思い出してみてください。「いちいち細かいことまで言われてうるさかった」「聞かれること一つ一つに答えるのが面倒だった」「一人の人間としてみてほしかった」「失敗したら話は聞いてほしいけど、いきなり責めないでほしかった」「友達が悪口を言わないでほしかった」「他人と比較しないでほしかった」「いつも上から目線の物の言い方にうんざりした」など、思春期の特徴は人それぞれですから当てはまらない方もいるかもしれませんが、多くの方は「そんなことあった」と共感されるのではないのでしょうか。

子育ての目的は、子どもを自立した社会人にすることです。そのためには、①自分の力で課題を見つけ解決したり、他者と協働して最適な解を見付けたりするなど自分の意志で進もうとする

態度を養うことと、②「自分は必要な存在なんだ」という自己肯定感を高めることです。

そのような子育ての段階に入るのが思春期のころからなのです。

まず、一つの切り口をご説明するので、理解いただき、もし必要なら実践してみてください。

一人の人間として認めた対応をすること

「態度が生意気になってきたと感じる子」「言葉遣いが悪くなってきたと感じる子」「学校のことを話さなくなってきた子」「登校しぶりをしている子」「発達障がいがあるのかなと思われる子」など、保護者の方にとってご自身のお子さんの気になる点や心配な点は多様だと思いますが、保護者として、お子さんを最後まで守り切るという姿勢を前提にしながらも、過度な子ども扱いをしてはいけません。

●頭ごなしの物の言い方をしない

先ほどの例で、一人の人間として認めた対応をすることとは、「その態度は、さすがにカチンとくるんだけど。何かあったの?」「そう言われると傷つくわ」「学校のことを話してくれないと、何かあったのかなって心配になるよ」「学校に行きたくない理由があるんだよね」「授業を受けていたり、家で勉強していて困ることがあるんじゃない?」のように、理由を聞かずに決めつけることをしなかったり、頭ごなしの物の言い方をしなかったり、保護者も子どもと同じ人として感じる心情を表現したり、お子さんの心情を人として理解しようとする言葉かけをすることです。

●過程を認める

一方で、お子さんが頑張っていることもあるはずですが、部活動や勉強、友達つきあいなど、中学生は毎日が様々な経験の積み重ねです。それらの経験で何らかの成果を上げたり、成功を収めたりしたときも、一人の人間として認めた対応をします。「テストで〇〇点とったなんてすごいじゃないか」「区大会でベスト4ってのはすごいわね」「〇〇さんと仲直りできてよかったね」と賞賛するのは、それだけでとてもいいことですが、これではまだ子ども扱いなのです。

子どもの自己肯定感をもっと高めるために大切なことは、保護者の方が結果よりもそこに至る過程をどれだけ知っているかにかかっています。「今回のテスト勉強では自分で決めた時間にきちんとやっていたからいい結果になったんだな。よく頑張ったな。」「部活の練習だけでなく、毎日ジョギングと筋トレをし続けた結果がベスト4なのかもしれないわね。えらいわ。」「あんなに『どうしようどうしよう』って言っていたけど、どうやって仲直りできたの?もしかしてすごく勇気がいったんじゃない?」と、お子さんのそこに至る過程を中心に褒めて認めてあげることの方が、一人の人間として認めた対応となるのです。

●「私は」を主語とした話し方をする

また、会話の仕方も大切です。保護者の方が「私は」を主語とした話し方をすることはとても効果的です。

1ページに掲載した3つを小言と表現した理由は、文句や感情をぶつただけで、保護者が考える解決策を示していないからです。例えば、違った話し方として

○お母さんは、この時間帯にスマホを使わないって決めた方がいいと思うんだけど、どう?

○お父さんは、成長期には寝る時間が大切だと思うから、寝る時刻を決めたらいいと思うんだ。

○お母さんは、□□ちゃんの部屋だからこそ、□□ちゃんが責任をもつべきだと思うわ。

のように、「私は」を主語とした話し方をすることにより、保護者の方もそのときの感情だけではなく、ご自身の主張や考え方をお子さんに伝えることとなります。お子さんが違った考え方をもっているのなら、お子さんは受けた発言に対して反論をしてくるかもしれません。ときには屁理屈を言ってきて、「お父さんは、それは理屈が通っていないと思うんだけどな」という会話になるかもしれません。しかし、保護者の方の価値観とお子さんの価値観に基づいた対話により、一人の人間として認めた対応が成立することが重要なのです。仮に、途中でお子さんがすねたりして対話が成立しなくなったとしても、お子さんは「まずかったな」「言い過ぎたな」と反省します。

「一人の人間として認めた対応をすること」を切り口にご説明しましたが、以下に子育てに関するチェックリストをお示しします。

お子さんを理解し、信じる

- お子さんの意志・意向に対して、否定から入らない
- お子さんの交友関係や特定の友達に関して、否定をする発言をしていない
- 褒めるべき場面ではお子さんを褒めている
- お子さんの得意なことや長所を知っている
- お子さんのやりたいこと、夢やなりたい姿を知っている
- お子さんの友達の中で顔と名前が一致する子がいる
- お子さんが家にいないとき、だいたいどこにいそうなのか察しがつく

お子さんと向き合う

- お子さんと日常的な会話やあいさつがある
- お子さんの意見は聞き流さず、傾聴している
- お子さんが目標としていることを応援している
- お子さんと意見が異なるとき、感情的にならず、互いに理由を聞いている
- 保護者自身に間違いがあったとき、お子さんに謝っている
- お子さんに不満があっても、諦めずに向き合おうとしている
- お子さんが困ったときは、「いつでも相談に乗る」という態度を日常的に示している

お子さんを「家族や社会を構成する一員」として認めている

- 家庭内で、お子さんに何らかの役割を担わせている
- 親戚づきあいについてお子さんを積極的に関わらせようとしている
- 地域行事にお子さんと一緒に参加している
- お子さんに、自分の生きがいや夢などについて話すことがある
- 政治・経済・社会などについて、お子さんと話すことがある
- お子さんから、時事問題について聞かれることがある
- 我が国の外交上の強みや課題について、お子さんと話すことがある

「子育て」について私自身の反省の念を込めてお伝えいたしました。以上では解決に至らない悩みなどもあると存じますが、本校ではいつでもご相談に乗ります。また、本校PCホームページの左側のメニューでは「子育て」に関する相談先やその情報を紹介しておりますのでご活用ください。

高校入試の出願手続きに関する志願者自身の責任の拡大

現在3年生は、すでに他県の私立高校の入試に突入しており、明日からは都内私立高校の推薦入試も開始されます。都立高校は日程が決まっているので一律に把握することができますが、私立高校は学校ごとに選抜日程が異なりますので、子どもたち一人一人が自分の入試スケジュールを管理しなければなりません。

これも、社会を構成する一員として自立するために乗り越えなければならないハードルだと思います。

さて、今回の都立高校の入学選抜の手続きでは、昨年度までと異なる点が何点かありました。1・2年生の保護者の皆様にとって参考になるよう、その中で、顕著なものを2点だけご紹介いたします。

1 推薦に基づく選抜及び第一次募集・分割前期募集では、入学願書は志願者が郵送により提出する方法に変更されました。

昨年度は、中学校が入学願書を取りまとめ、郵送により提出していました。

2 インターネットを活用した高等学校が、1校から20校に拡大されました。

現在、試行として拡大しておりますが、来年度はさらに拡大されることが予想されます。

いずれの変更点についても、共通して言えることは、志願者自身の責任が大きくなったということです。私立高校ではインターネットを活用した出願が、昨年度より多数導入され、今年度はさらに拡大されています。

2年生は、高等学校調べをしていることと思います。それぞれの高等学校の教育方針・内容、具体的な教育活動などを調べるのが第一ではありますが、入学手続きについても同時に調べておく必要があると思います。保護者の皆様も関心をもっていただきたく存じます。

なお、今年度の入学者選抜の大まかな日程を以下にご紹介いたします。

	入学者選抜	実施日	発表日
1	都内私立高等学校推薦入学者選抜	1月22日(土)以降に学校ごと	学校ごと
2	都立高等学校推薦入学者選抜	1月26日(水)・27日(木)	2月2日(水)
3	都内私立高等学校一般入学者選抜	2月10日(木)以降に学校ごと	学校ごと
4	都立高等学校海外帰国生徒入学者選抜	2月15日(火)	2月17日(木)
5	都立高等学校一般入学者選抜① ^{※1}	2月21日(月)	3月1日(火)
6	都立高等学校一般入学者選抜② ^{※2}	3月9日(水)	3月15日(火)
7	都立高等学校定時制二次募集入学者選抜	3月25日(金)	3月28日(月)

※1:第一次募集及び分割前期募集

※2:分割後期募集及び全日制第二次募集(インフルエンザ等追検査を含む)

お知らせ

- 令和3年度明るい選挙ポスターコンクールで以下の成績を収めました。
入選 三國 敬吾(2年) 菊澤 真結(2年)
佳作 古谷 華蓮(1年)
- 東京都読書感想文コンクールにおいて以下の成績を収めました。
都優秀賞 花井 遥香(3年)
- 荒川区読書感想文コンクールにおいて表彰を受けました。
清水 百音(2年)
- 荒川区文化祭書道展において表彰を受けました。
齊藤 百香(3年) 大谷 悠貴(3年) 徳原 唯愛(3年) 大倉 美帆(3年)
森 和音(3年) 大矢 千央(1年)
- 荒川区文化祭俳句展示会において表彰を受けました。
佳作 細川 玲奈(3年)
- 第89回全国書画展覧会書の部において以下の成績を収めました。
金賞 齊藤 百香(3年)
- JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021において以下の成績を収めました。
佳作 田代 万菜子(3年)
(なお、このコンテストにおいて第三中学校が学校賞を受賞しております。)
- 荒川区新人大会 バスケットボール部女子の部で以下の成績を収めました。
第2位
優秀選手賞 滝沢 陽菜(2年)
- 荒川区冬季学年別大会 バドミントン女子シングルの部において以下の成績を収めました。
2年生の部 第2位 矢野 一杏
1年生の部 第3位 中條 珠妃
- 1年生大会 バレーボール部の部で以下の成績を収めました。
第2位